



<b>ファームウェアバージョン:</b>	R2.24.B021	
<b>ハードウェアバージョン:</b>	DGS-3630-28SC	A1/A2
	DGS-3630-28TC	A1/A2
	DGS-3630-52TC	A1/A2
	DGS-3630-28PC	A2
	DGS-3630-52PC	A2
<b>発行日:</b>	2020/4/10	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

## 目次：

変更履歴とシステム要件：	2
アップグレード手順：	2
CLI（シリアルポート）を使用したアップグレード	2
Web GUI を使用したアップグレード	5
追加機能：	8
MIB および D-View モジュールの変更点：	8
コマンドラインインタフェースの変更点：	9
修正した問題点：	10
既知の問題：	10

**変更履歴とシステム要件：**

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
ランタイム：R2.24.B021	2020/4/10	DGS-3630-28SC	A1/A2
		DGS-3630-28TC	A1/A2
		DGS-3630-52TC	A1/A2
		DGS-3630-28PC	A2
		DGS-3630-52PC	A2

**注意：**

- A1を含む全てのハードウェアバージョンの製品について、R2.00.xxx以上のファームウェアを使用しているもしくは一度R2.00.xxx以上のファームウェアにアップグレードしたデバイスを、R1.00.060を含むすべてのR1.00.xxxバージョンへダウングレードしてお使いになることはできません。

また、Bootloaderバージョンが2.00.002以上のものをお使いの場合にも、すべてのR1.00.xxxにダウングレードすることはできませんので十分にご注意ください。(お使いのファームウェアバージョン、Bootloaderバージョンは、「show version」コマンドでご確認いただけます)

必ず2.10.B022以上のファームウェアのままお使いください。ダウングレードした場合、正常に起動・動作することができなくなります。

- パスワードの暗号化を有効にし、SNMPのコミュニティ、グループ、トラップ受信ホストの追加を設定している場合、アップグレード後にそれらを再度手動で追加する必要があります。

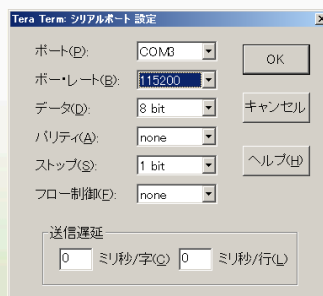
**アップグレード手順：**

アップグレードを行うには、CLI(シリアルポート)使用する、もしくは Web GUI から行うことができます。

**CLI (シリアルポート) を使用したアップグレード**

1. スwitchの RS-232 シリアルポート (コンソールポート) と PC を接続し、ターミナルソフトウェアを起動します。ターミナルソフトウェアの設定は下記の通りです。(本手順書ではターミナルソフトウェアは Tera Term を使用しています。)

- ボーレート：**115200**
- データビット：**8**
- パリティ：**none**
- ストップビット：**1**
- フロー制御：**none**



2. 接続が正常に行われると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。管理者のユーザ名及びパスワードは、初期状態では登録されていないので「enter」キー 1 回を押し、ログインします。

3. ログイン後は下記のコマンドを使用し、ファームウェアのアップデートを行います。

コマンド	説明
enable	特権レベルに移行します。
configure terminal	グローバルコンフィグモードに入ります。
exit	現在のコンフィグモードを終了し、最後に使用したモードに戻ります。
copy tftp: //LOCATION/SOURCE-URL flash: PATH-FILE-NAME	スイッチにファームウェアをダウンロードします。
boot image	次回の起動時にイメージファイルとして使用されるファイルを指定します。
show boot	現在のブートイメージと設定ファイル名を表示します。
reboot	スイッチをリブートします。
Show version	スイッチのバージョンを表示します。

以下の例を参考にファームウェアのアップデートを行ってください。

例:

(1) スwitchにファームウェアをダウンロードします。

Switch>enable

Switch#copy tftp: //10.90.90.100/DGS3630\_Run\_2\_24\_B021.had flash:

DGS3630\_Run\_2\_24\_B021.had

Address of remote host [10.90.90.100]?

Source filename [DGS3630\_Run\_2\_10\_B022.had]?

Destination filename [DGS3630\_Run\_2\_10\_B022.had]?

Accessing tftp://10.90.90.100/DGS3630\_Run\_2\_24\_B021.had...

Transmission start...

Transmission finished, file length 15088984 bytes.

Please wait, programming flash..... Done

(2) ブートイメージを指定します。

Switch#

Switch#**configure terminal**

Switch(config)#**boot image DGS3630\_Run\_2\_24\_B021.had**

Switch(config)#**exit**

Switch#**show boot**

Unit 1

Boot image: /c:/ **boot image DGS3630\_Run\_2\_24\_B021.had**

Boot config: /c:/config.cfg

(3) スイッチを再起動します。

Switch#**reboot**

Are you sure you want to proceed with the system reboot?(y/n) **y**

Please wait, the switch is rebooting...

**注意：**

**スイッチのアップグレード中及び再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。**

(4) バージョンがアップグレードされていることを確認します。

Switch>**show version**

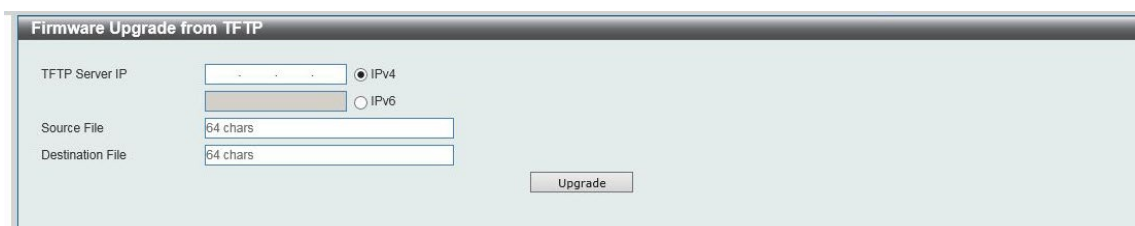
System MAC Address: xx- xx - xx - xx - xx - xx

Unit ID	Module Name	Versions
1	DGS-3630-28SC	H/W:A1
		Bootloader:1.00.007
		Runtime: 2.24.B021

Switch>

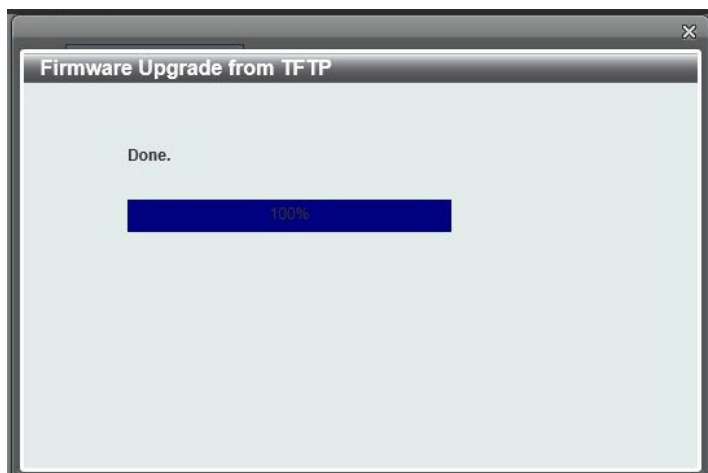
### Web GUI を使用したアップグレード

1. Java SE runtime environment をダウンロードして、お客様の PC にインストールします。
2. システムの IP アドレスを指定してスイッチにアクセスします。デフォルトのシステム IP アドレスは 10.90.90.90 です。
3. PC 上で TFTP サーバを有効にします。(必ずご使用の PC に TFTP サーバのインストールを行っておいてください。)
4. お客様の PC から RJ45 ネットワークケーブル経由でスイッチにアクセスできることを確認し、Web 管理画面からログインしてください。  
「User Name」(管理者のユーザ名)と「Password」(パスワード)は、初期状態では登録されていません。「空白」でログインを行ってください。
5. スイッチのファームウェア更新を行うには、**Tools > Firmware Upgrade & Backup > Firmware Upgrade from TFTP** の順にクリックし、必要な情報を入力後、「Upgrade」ボタンをクリックします。



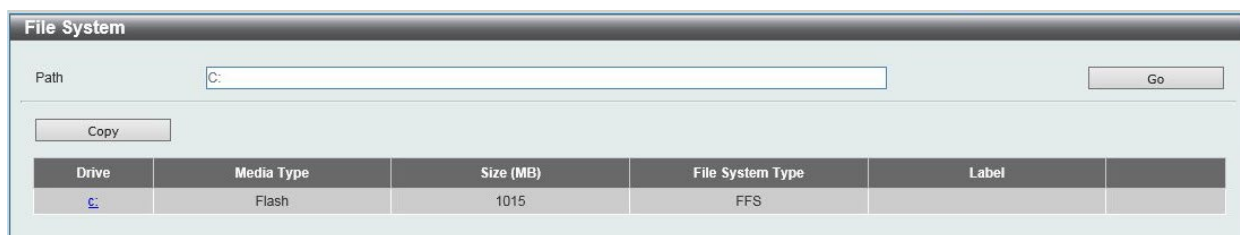
- TFTP Server IP: IPv4 もしくは IPv6 を選択し、TFTP サーバの IP アドレスを入力します。
- Source File : TFTP サーバ上に保存したダウンロード済みのファームウェアファイル名を入力します
- Destination File : フラッシュドライブにファームウェアをロードするために、パスとファイル名を入力します。(例 : c:/DGS3630\_Run\_2\_24\_B021.had)

6. ステータス画面が表示されます。「Done.」(完了) ステータスを確認後、本画面を閉じます。

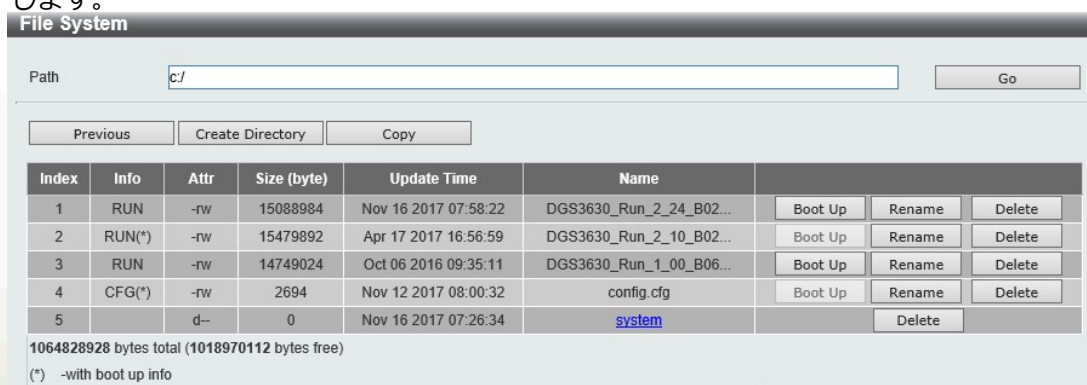


**注意：ファームウェアのダウンロード中およびスイッチの再起動中に、電源を切らないでください。電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。**

7. 次回のスイッチリブート時にブートアップを行うイメージが選択するために、**Management > File System** の順にクリックします。



8. Drive 欄の [C:](#) をクリックします。  
9. 該当するイメージの行にある「Boot Up」ボタンをクリックし、ブートアップファイルとして設定します。



※Info 欄の \* は、現在ブートアップファイルに指定されていることを表します。

10. ブートファイルの指定に成功すると「Success」と表示されるので、画面の「OK」をクリックします。
11. スイッチのリブートを行います。リブートを行うには、**Tools > Reboot System** をクリックします。



12. 「Reboot」ボタンをクリック後、「Are you want to reboot?」と表示されるので「OK」ボタンをクリックし、スイッチを再起動してください。



**注意：スイッチの再起動中に、電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。**

13. システムの再起動後にログインし、ファームウェアのバージョンがアップグレードされていることを確認します。



## 追加機能：

ファームウェアバージョン	変更点
R2.24.021	<ol style="list-style-type: none"> <li>OpenFlow ハイブリッドモードをサポート致しました。</li> <li>IPv6 ND Inspection で Precise モードと Fuzzy モードをサポート致しました。</li> <li>IPv6 Snooping で、以下のエントリの設定をサポート致しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>IPv6 Snooping DHCP エントリ</li> <li>IPv6 Snooping NDP エントリ</li> <li>IPv6 Snooping DHCP-PD エントリ</li> </ul> </li> <li>DHCPv6 の更新/リバインドパケットをスヌーピングする DHCPv6 Snooping extension モードをサポート致しました。(CLI のみ)</li> <li>スタックユニットに 1 つのブートイメージを設定可能と致しました。</li> <li>debug show tech-support で、スタックユニットのスレーブの情報表示をサポート致しました。</li> <li>L2PT パケットの、同じ VLAN の NNI ポートへの転送をサポート致しました。</li> <li>コンフィグレーションモードで do コマンドをサポート致しました。</li> <li>IPv4 インタフェースの Web GUI で、セカンダリ IP の設定をサポート致しました。</li> <li>DHCP サーバ除外アドレス設定で、除外できるアドレス数を 50 までに変更致しました。</li> <li>HOL の有効/無効をサポート致しました。(CLI のみ)</li> <li>ifSpeed MIB/ ifHighSpeed MIB で LACP グループをサポート致しました。</li> <li>RADIUS CoA をサポート致しました。(CLI のみ)</li> <li>RFC1583 をサポート致しました。</li> <li>片方向リンク検知 (DULD) のリカバリ時に、Syslog とトラップをサポート致しました。</li> <li>Web GUI に VLAN Configuration Wizard 画面を追加致しました。</li> <li>JWAC をサポート致しました。(CLI のみ)</li> <li>RADIUS サーバから配信されたダイナミック ACL エントリの表示をサポート致しました。</li> <li>ダイナミック ACL で RADIUS Filter Rule Attribute (RFC4849)をサポート致しました。</li> <li>VE ID の設定可能数を 200 に変更致しました。(CLI のみ)</li> <li>VE ID のセッション数を 40 に変更致しました。(CLI のみ)</li> <li>事前に定義された Voice VLAN の OUI の削除をサポート致しました。</li> <li>SSH クライアントをサポート致しました。</li> </ol>

## MIB および D-View モジュールの変更点：

ファームウェアバージョン	MIB ファイル	変更点
R2.24.021	ifSpeed MIB ifHighSpeed MIB	LACP グループをサポート致しました。



## コマンドラインインタフェースの変更点：

ファームウェアバージョン	変更点
R2.24.021	<ol style="list-style-type: none"> <li>openflow mode コマンドを追加致しました。</li> <li>ipv6 nd inspection policy で mode {precise   fuzzy}コマンドを追加致しました。</li> <li>ipv6 neighbor binding max-entries コマンドを追加致しました。</li> <li>protocol コマンドで dhcp-pd-ext オプションに対応致しました。</li> <li>boot image コマンドで all オプションに対応致しました。</li> <li>debug show tech-support コマンドで unit UNIT-ID オプションに対応致しました。</li> <li>HOL について以下のコマンドを追加致しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>hol-prevention</li> <li>no hol-prevention</li> <li>show hol-prevention</li> </ul> </li> <li>RADIUS CoA について以下のコマンドを追加致しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>aaa server radius dynamic-author no aaa server radius dynamic-author</li> <li>client { IP-ADDRESS   HOSTNAME } [ vrf VRF-NAME ] server-key [ 0   7 ] STRING no client { HOSTNAME   IP-ADDRESS }</li> <li>port port-number no port</li> <li>radius-server attribute 55 include-in-acct-req no radius-server attribute 55 include-in-acct-req</li> <li>authentication command bounce-port ignore no authentication command bounce-port ignore</li> <li>authentication command disable-port ignore no authentication command disable-port ignore</li> </ul> </li> <li>JWAC について以下のコマンドを追加致しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>jwac system-auth-control no jwac system-auth-control</li> <li>jwac update-server {IPV4-PREFIX/ PREFIX-LENGTH   IPV6-PREFIX/PREFIX-LENGTH } [tcp NUMBER   udp NUMBER ] no jwac update-server {IPV4-PREFIX/ PREFIX-LENGTH   IPV6-PREFIX/PREFIX-LENGTH } [tcp NUMBER   udp NUMBER ]</li> <li>jwac udp-filtering no jwac udp-filtering</li> <li>jwac virtual-ip{ ipv4 IP-ADDRESS   ipv6 IPV6-ADDRESS   url STRING} no jwac virtual-ip {ipv4   ipv6   url }</li> <li>aaa authentication jwac default METHOD1 [METHOD2...] no aaa authentication jwac default</li> </ul> </li> <li>SSH クライアントについて以下のコマンドを追加致しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ip ssh client authmethod {password   publickey} no ip ssh client authmethod</li> <li>ip ssh client keypath {publickey STRING   privatekey STRING} no ip ssh client keypath {publickey   privatekey}</li> <li>show ip ssh client</li> <li>ssh [/vrf VRF-NAME] {IP-ADDRESS   IPV6-ADDRESS}</li> </ul> </li> </ol>

## 修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
R2.24.B021	<ol style="list-style-type: none"> <li>DHCPv6 Relay の機能において、Relay 時の SrcIP が Loopback になる場合に、Relay-reply が転送されない問題を修正致しました。</li> <li>LACP/STP/ERPS/.1x/MBA の機能によってパケットの送信が制限されている場合でも、TX の Mirroring が行われる問題を修正致しました。</li> <li>パスワード暗号化を有効にした場合に発生する以下の問題を修正致しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>-コミュニティ名が 17 文字以上の snmp コミュニティを作成できなくなる問題</li> <li>-異なる名前の SNMP コミュニティに作成後にパスワード暗号化を有効にすると、同じ暗号化ハッシュが適用される問題</li> </ul> </li> <li>SLAAC デフォルトルートを経静的デフォルトルートに置き換えることができない問題を修正致しました。</li> <li>「Arp Inspection Log」の Web GUI 画面で、画面下部のページ表示が正しく更新されない問題を修正致しました。</li> <li>履歴カウンタのスタッキングメッセージが多くなると、スタッキングがタイムアウトする場合がある問題を修正致しました。</li> <li>Stack 構成で OSPF を使用している場合、再起動により通信不可、または不安定になる場合がある問題を修正致しました。</li> <li>スタートアップコンフィグが no jwac virtual-ip url であるにも関わらず、ランニングコンフィグが jwac virtual-ip url になり、保存することで JWAC 以降のコンフィグが読み込めなくなることがある問題を修正致しました。</li> <li>PIM-SM でピアスイッチを CLI でリポートすると、DGS-3630 がリポートする場合がある問題を修正致しました。</li> <li>Wizard を使って VLAN を作成した場合に、既存の VLAN 設定をリセットする問題を修正致しました。</li> </ol>

## 既知の問題：

ファームウェアバージョン	既知の問題
R2.24.021	<ol style="list-style-type: none"> <li>copy running-config ftp: コマンドにおいて、DGS-3630 が IDENT を破棄するために異常終了する問題。 対処方法：以下のコマンドの適用と確認を行ってください。   <pre>Switch#configure terminal Switch(config)#no network-protocol-port protect tcp Switch(config)#end  Switch#show network-protocol-port protect  TCP Port protect state: Disabled UDP Port protect state: Enabled</pre> </li> <li>MSTP 機能において、instance vlans が 512 で分割して表示される問題。</li> </ol>

3. 「R1.00.B060」と「R2.10.022 または R2.24.B021」間のコンフィグ互換性の問題。(制限事項)
  - (1) 「R1.00.B060」から「R2.10.022 または R2.24.B021」への設定の引継ぎは可能(アップグレード及びリストア)
  - (2) 「R2.10.022 または R2.24.B021」から「R1.00.B060」へ設定引継ぎは不可(リストア)  
 ※「R2.10.022 または R2.24.B021」のファームウェアにアップグレードしたデバイスを、R1.00.060 にダウングレードすることはできません。
4. Vlan Interface を経由して Mgmt 0 の IP address 宛に通信を行う事が出来ない問題。(制限事項)
5. Chipset limitation により、10Mbps/Half Duplex で Link Up しない問題。(制限事項)
6. 10G での auto-negotiation 情報を表示できない問題。(制限事項)
7. 10G ポートでの auto-downgrade をサポートしない問題。(制限事項)
8. MPLS が無効な Connected 経路は MPLS table に載せることは出来ない問題。(制限事項)
9. Cable Diagnostic を実行すると、対象の Port において Link Down を伴う問題。(制限事項)
10. IGMP Snooping において Querier Emulation をご利用の環境で、Specific Query の間隔が設定値より短くなる問題。(制限事項)
11. DEM-431XT-DD/A1 をご利用の場合に、"TX power high warning threshold exceeded"の log が記録される問題。  
 対処方法：規定値から下記の値に変更してください。  

```
Switch(config)#transceiver-monitoring tx-power ethernet 1/0/25 high alarm dbm 0
```

```
Switch(config)#transceiver-monitoring tx-power ethernet 1/0/25 high warning dbm -1
```

WARNING: A closest value 0.7943 is chosen according to the transceiver-monitoring precision definition.
12. NTP Server の機能について、経路に従ってソース IP が決定されるため、構成によりクライアントが同期に失敗する場合がある問題。
13. L3/L4 系の Hash を利用する場合でも、FDB(MAC Address Table)にエントリが無い、または Flooding 対象の場合は MAC Hash が利用される問題。
14. Link Trap を有効にした場合、同時に LAG の Link Trap も有効になる問題。

**Copyright 2006-2020 D-Link Japan K.K.**